



秋葉区「九条の会」事務局

新津教育会館内

新潟市秋葉区善道町2-9-44

Tel 0250-21-3691 Fax 0250-21-3692

<http://9jo.iinaa.net/index.htm>

「九条の会」新潟県交流会が開催されました！

憲法審査会の規定策定について、民主党と自民党が合意したと報道され、改憲論議が本格的にスタートしたとされています。そのような情勢の中で、全国九条の会事務局の小沢隆一（東京慈恵医大教授）を迎えて、「九条の会」新潟県交流会が1月23日に開催されました。会場のクロスパル新潟には全県各界の「九条の会」から約80名が参加し、「民主党政権の安保防衛政策と九条の会の役割」と題した講演会と各地域の活動報告で交流を深めました。

「新潟県九条の会」事務局からの報告

工藤和雄 事務局長

2004年6月に井上ひさしさんら9の方が「九条の会」のアピールが出され、全国各地に「九条の会」広がり、新潟県においても、2005年10月に大江健三郎さん、澤地久枝さんを迎え「憲法9条と平和をまもる10.22新潟の集い」を県民会館大ホールで行いました。その高まりの中で、2006年6月に万代市民会館において、島津光夫さん、中村洋二郎さん、成島隆さんをはじめとした10の方々の呼びかけで「新潟県九条の会」が結成され、全国では5千を超える「九条の会」が結成されました。昨年の4月には7500余りになり、県内では82の「九条の会」が結成されました。

今回の交流集会を準備するにあたって、「県九条の会」に対する要望・意見を伺いました。その中に「情報交換や交流集会の開催」などの要望が沢山ありました。その障害になっているのが、「県九条の会」には財政基盤がないことであり、何とかこの課題を解決し、そのうえで「年数回の情報発信、年1回の交流集会を開催し、県内の九条の会のセンター的役割を果たしていきたいと考えている」との決意が示されました。

講演「民主党政権の安保防衛政策と九条の会の役割」

＜配布された資料より抜粋＞

小沢隆一 「全国九条の会」事務局、東京慈恵会医科大学教授

- ◇ 2009年の政権交代、民主党のマニフェスト、3党合意とは、一体何だったのか？
- ◇ 「迷走」のあげく、元のさやの「日米合意」に戻ってしまった。「菅政権」とは何者か？きちんと見る必要がある。「新防衛計画の大綱」の危険な中身は、どこから来るのか？
- ◇ 政権交代があつたにもかかわらず、自民党政治と同じことを継続する。政権交代があつたからこそ、自民党にはできなかったことを実行するという面がある。その両面を見る必要がある。
- ◇ 「新安保懇報告」の中に、「武器輸出三原則」を見直して「防衛装備協力」や「防衛援助」を進めることも、「平和創造国家」になるための有効な手段であるとしている。これは防衛産業界への露骨な迎合で、「自衛隊の装備受注にのみ頼っていたのでは、日本の防衛産業は生き残れない」というホンネが見える。
- ◇ 「新安保懇報告」「2010防衛白書」「新防衛計画大綱」が示すものは、民主党政権の安保・防衛政策が、「日米安保」を絶対視する対米屈従と軍事産業の拡大に固執する大企業に言いなりになるという特徴をもっていることである。この特徴は、自民党政権と変わるところは何もない。
- ◇ それどころか、自民党政権が受け継いできた「基盤的防衛力構想」や「武器輸出三原則」などの放棄を「政権交代」という機会をとらえて、果たそうとしているように見える。過去のしがらみをひきずっている自民党政権よりも、かえって危険な側面がある。
- ◇ 民主党・自民党という大政党が改憲勢力ということであり、手ごわい相手ということになる。しかし、日本国民は憲法9条を一貫して強く支持してきたし、私たちは「明文改憲」を阻止してきたという実績がある。また、アメリカのような「軍産複合体」の形成が阻止されてきたし、「後戻りできない地点」には至っていない。私たちのなすべきことは、まだまだたくさんある。
- ◇ かつて加藤周一さんが言った言葉を結びにしたい。「おそらく、これからは長丁場になるでしょう。それに抵抗するには、やはり9条を守るということだけでなく、9条を生かす必要がある……。」

平和のメッセージ

秋葉区のすみずみまで響かそう、
皆でつなぐ、平和のメッセージを！

平和のバトンリレー

上杉 邦明（草水町）

父母は終戦の頃に生まれ、昭和47年の沖縄返還の年に生まれた自分にとって、戦争とは常に他国の出来事でした。

小学校くらいまでで、戦争について見聞きするものといえば、親からの体験談なども特になく、もっぱら「はだしのゲン」や「パパママはいはい」など、マンガや映画、TVなどによるものでした。

ただ、子供心にもこれらの話は分かりやすく、戦争は絶対いけないとの思いを強烈に抱かせたものです。

その後、高校生の頃に見たブラウン管越しの湾岸戦争は、あたかも映画かTVゲームのようで、あまりに現実感のないものでした。

大学に入り民青に入ったあとは、南京大虐殺に関わった方から生の話を聞いたり、原水禁大会に参加して被爆の実相に触れたり、戦争の不条理さ、悲惨さについて深く知るようになりました。

しかし残念ながら多くの若者にとって、戦争の傷跡や経験に触れる機会はほとんどなく、TVからは、テロ集団や北朝鮮の脅威などを利用した抑止力論が一方的に流されています。

戦後65年がたち、戦争の記憶とその反省にたった憲法の精神は、なにもしなければ風化してしまうでしょう。私自身、幼少時代に反戦映画に連れて行ってもらったり、平和運動に触れる機会がなければ、日本を守るためにはもっと軍備を増強しなければ…、なんて考えに陥っていてもおかしくありません。

月日がたち、私も2男1女を授かり、長男は小学4年生と多感な年頃となりました。かつて来た道を繰り返すような動きが目立つ時代にあって、今こそ先達から託されたこの平和のバトンを落とすことなく、手渡したいと思います。

協力券へのご協力ありがとうございました！

秋葉区「九条の会」財政は、200円の入会金と協力金・寄付金で賄っています。

2010年度の収入は274,019円、支出は179,623円。差引残金(繰越)は、94,396円です。

今後ともご協力をお願いします。（事務局）

笑えないマンガ

～ 巨大な軍隊の巨大なムダ ～

星山 圭（新津本町）

軍事大国日本

1951年警察予備隊（後の自衛隊）が創設されてから60年、日本は強力な軍隊をもつ世界有数の軍事大国になりました。戦前と違って軍隊としての自衛隊が国民の眼にふれる機会はあまりありません。しかし、「自衛隊図鑑」をみると最新鋭の恐ろしい破壊兵器がズラリ、国民の知らない間に自衛隊は強大な軍隊になってしまったのです。しかし――。

まるでマンガ

米ソの冷戦時代、ソ連の侵略に備えるのだと戦車を北海道に配備しました。ソ連が消滅、冷戦が終ったいま敵はどこから攻めてくるのか。ミサイルが飛ぶ時代、戦車が活躍する場面は想像しにくいですが、仮に緊急事態になったら移動させなければなりません。ところが、主力の90式戦車は重量なんと50トン！、4トントラック12台以上ですから一般道を走ったら道を壊してしまう。だから、戦争になったらいちいち解体して運ぶのだと。役に立つはずもない、とんでもないガラクタです。

究極のマンガ

自衛隊は2004年からアメリカと共同で迎撃ミサイル開発を進めています。敵のミサイルをアメリカに行く前に日本の上空で撃ち落とす、アメリカ本土防衛が目的です。しかし、仮に北朝鮮がアメリカをミサイル攻撃するとしても、そもそもそのミサイルは、北の最短距離をとるので日本上空を通りません。飛んでこないミサイルを撃ち落とす？ まさにマンガとしか言いようがない世界ですが、この計画にはすでに1000億円近い税金がつぎこまれ、まだ続けられるといいます。

金食い虫にこそ仕分けを！

戦車1台9億円、戦闘機1機116億円、イージス艦1隻1538億円、ヘリ空母1隻1016億円。年間防衛予算は実質10兆円に、みんな私たちの税金です。このお金を社会保障にまわせばどんなに沢山のことができるか。消費税も上げなくて済みます。しかし、民主党も自民党も仕分けの対象にしようとしません。アメリカと財界が許さないから。憲法を踏みにじて巨大な軍隊を作っておいて、その現実にあわないから、憲法を変えろと改憲派は言う。

現実を憲法にあうようにかえることが求められています。